

米軍基地排水監視調査の実施

米軍基地排水等による公共用水域の水質汚濁については、下水処理施設の整備や、流域下水道への接続が進んできたことから年々改善されてきました。しかしながら、突発的な油流出等の事故が発生しているため、県では基地排水等の監視調査を実施し、水質汚濁の状況把握と水質事故の未然防止に努めています。

当研究所では、県の担当部局とともに、米軍施設内の下水処理施設等からの排水を採水し、水質汚濁防止法に定める生活環境項目6項目、健康項目27項目の分析を実施しています。

平成18年度の調査結果では、健康項目は排水基準値以下でしたが、生活環境項目で排水基準を満たしていない施設がありました。排水基準に満たない場合は、担当部局より米軍側に改善を申し入れ、その後の再調査で、施設管理の改善を確認しました。また、基地内の公共用水域及び地下水については9地点

延べ13回、基地周辺については11地点延べ20回調査しました。特に基地内排水溝からの油流出事故が多い地点では、重点的に周辺調査を実施しています。

これらの調査結果は、突発的な油流出事故等の際、比較対照にする基礎データとしても活用しています。
【環境科学班】



基地周辺河川水のサンプリング

小型刺し網によるハブの捕獲

ハブ捕獲用の刺し網は、環境に組み込んだ器材で、手間をかけずにハブの数を減らす手法の一つです。これまでに当研究所が行った実験で、網目の1辺が25mm前後で長さ10mの刺し網数枚を、石垣や林内などに1年間設置しておくで、平均で1個体のハブ（胃内に餌を持つ大きめが主）が捕獲されることが分かっていました。ただし、大きい網は場所によって、設置が困難な場合や、草刈りなどの邪魔になる場合があります。この点を改善するため、金属のメッシュを利用した、長さ1m前後の小型の刺し網を作製し、野外でハブの捕獲を試みたところ（写真1）、当初の予想よりも多くの11個体のハブ

が捕獲されました（写真2）。

本品は、安価な材料を用いて容易に作製できます。また、地面や石垣に突き刺すだけで設置でき、移動も容易で、耐久性もあります。日陰では、ハブが数日間生きていることがあるため、注意が必要ですが、最適な設置場所である林や草地に接した屋敷や施設の裏で用いれば、危険は少ないと考えられます。ハブが多い地域の家庭や施設などで用いれば、地域のハブ密度の低下をもたらすため、誰にでも使える有効なハブ駆除の第一歩になると期待されます。

【衛生科学班】



写真1. 屋敷と林との間に設置した小型刺し網



写真2. 刺し網に捕獲されたハブの死体